

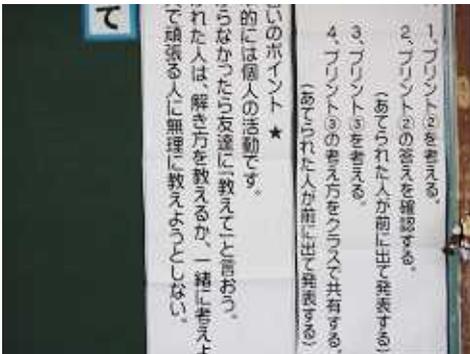
学び合いの授業づくり④(1年国語科)2017.12.1 学びの風景 ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指して～

本年度、第4回目の「学び合いの授業づくり」研究授業・研究協議会を実施しました。
研究授業では、生徒の学ぶ姿に視点

- | |
|--|
| <p>①どこで学び合いが成立したか。 ②どこで学び合いがつまづいたか。 ③どこに学び合いの可能性があったか。</p> |
|--|

を当てて授業を参観し、その後、教員相互による研究協議会を行いました。

今回も「学びの共同体」のスーパーヴァイザーである馬場宏明先生に来校していただき、生徒の学ぶ姿を見てもらいながら、授業づくりのポイント、21世紀型のグループ学習等について助言をいただきました。



グループ学習の約束

- ・まずは独りで考えよう
- ・分からなかったら訊こう
- ・訊かれたら応えてね
- ・訊かれるまでは教えない

「学び合いのポイント」を明示する



共有の課題（静かな学び）



共有の課題（わからなかったら訊（き）こう）



訊（き）かれたら応（こた）えてね

共有の課題（教師の指名による発表）



ジャンプの課題（まずは独りで考える）



わからなかったら訊（き）こう



自分の考えを人にわかるように説明する



教師が問いを重ね、生徒の理解を深めさせる



教員相互の学び合い（学びの事実から）



馬場宏明先生の指導・助言

【馬場宏明先生のご指導・ご助言より】

- ・考えようとする力、わからないことに向かう力を育てるのがこの授業である。
- ・授業の始めのあいさつをしてすぐに「学び合いのポイント（約束）」を示し、グループ学習に取り掛からせたのは素晴らしかった。
- ・子どもの聴く態度がすごく良い。
- ・子どもに考えさせる場面では、ゆっくり、じっくり考えさせる（あわてさせないように）。
- ・まずは独りで考える場面では、ちょっと難しめの課題で、誰もが夢中になる課題が良い。理解度の高い子どもも夢中になる姿を見て、理解度の浅い子どもも夢中で取り組むようになる。
- ・意図的な指名で発表させる。子どもの言葉で説明させる。そして、教師が問いを重ねることで、子どもの学び（理解度）が深まっていく。